2024年５月発行

かがやき

No.139

石神井川の桜は観光スポット【加賀福祉園】

新入所者をお出迎え【加賀福祉園】

施設の全景【かもめ園】

園庭でさつまいもを作りました【かもめ園】

INDEX

令和５年度　第３回知的発達障害部会　総会 …… 2
第36回心をつなげる福祉マラソン大会報告… 3
都外施設特別委員会及び利用者支援研究会
令和５年度　都外施設学習会について…… 4
令和６年能登半島地震について…… 5
人権擁護委員会「じんけんBoard」…… 6
令和５年度　虐待防止・権利擁護研修報告… 7
施設紹介「かもめ園」…… 8
施設紹介「板橋区立加賀福祉園」…… 9
リレーコラム、編集後記…… 10

●発行者　知的発達障害部会　部会長　小池　朗　●編集　知的発達障害部会　広報委員会

●発行所　東京都社会福祉協議会

〒162-8953　東京都新宿区神楽河岸 1-1　TEL 03-3268-7174　FAX 03-3268-0635

●知的発達障害部会ホームページ（https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/chitekisyogai.html）からもご覧いただけます。

令和５年度　第３回
知的発達障害部会　総会

広報委員　村上　翔（葛飾通勤寮）

令和５年度第３回総会は令和６年１月31日（水）にハイブリット型で開催しました。

●東京都行政説明

１．令和６年度予算案のポイントについて
２．生活福祉部からのお知らせ
（１）福祉人材情報バンクシステム『ふくむすび』のリニューアルについて
（２）「福祉の仕事就業促進事業」について
３．地域生活支援課所管事業について
（１）障害者グループホーム体制強化支援事業について
（２）地域生活支援拠点の機能強化・整備について
（３）サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修実施への協力依頼について
（４）障害福祉サービス等職員居住支援特別手当事業について
（５）障害福祉人材の確保・定着に向けた事業所等支援事業について
４．施設サービス支援課所管事業について
（１）障害者支援施設等におけるデジタル技術等活用事業
（２）地域移行促進コーディネート事業
（３）障害者支援施設等支援力育成派遣事業
（４）障害者支援施設等におけるリハビリテーション職員配置促進事業
５．連絡事項等
（１）施設事業所における事故防止対策の徹底について
（２）施設・事業所における虐待防止体制整備の徹底について

上記の件について各担当から、説明がありました。

●議決事項

①令和５年度補正予算（案）について
②令和５年度部会費の徴収について
③令和６年度事業計画（案）について
④令和６年度予算（案）について

これらの議決事項について、過半数の承認を得られたため、可決されました。

●報告事項

①（福）清陽会　新聞等の報道に関するご報告
②大規模災害時対応マニュアルについて
③本人部会からの報告
について報告がありました。

●記念講演

「これからの福祉～障害福祉事業所と支援者が心すべきこと～」講師として、毎日新聞客員編集委員でもある植草学園大学副学長　野沢和弘氏にご講演いただきました。日本の人口減少の視点から、人材の確保の困難さや固定資産税等の減少による社会の財源確保の困難さなど、20年後、40年後の福祉で向き合う社会での課題について聞くことができ、「福祉の現場の魅力をどうしたら伝えられるかだろうか」「人材が少ない中でどう支援していくのか」について考えることができるとともに、今から取り組めることはなんだろう、と考える機会となりました。貴重な講演、ありがとうございました。

24-04-013_かがやきNo.139.indd　2　　2024/04/12　17:25:53

第36回心をつなげる福祉マラソン大会報告

大会実行委員長　荒木　一彦

令和６年２月18日（日）春のような陽気の中、第36回心をつなげる福祉マラソン大会が開催されました。今大会は、新型コロナが第５類になったことで、以前のように通常大会に近い形で行われました。昨年から委託業者としてお願いしている「團コミュニケーションズ」は、会場である荒川河川敷でマラソン大会を企画運営しており、会議参加から大会当日まで多くのサポートをしてくれました。特に参加者からの要望が出ていた更衣用テントを男女別に設置をしてもらい、大変好評でした。私たち実行委員会は、５月から大会準備をはじめ、多くの方に福祉マラソン大会を通して、楽しんでもらおうと企画を練ってきました。その一つとして、８月にはすっかり恒例となった「走る」をテーマにしたデザインを公募し、25事業所99点の応募がありました。どれも個性的で素晴らしい作品ばかりで選考にも悩みましたが、昨年よりも多い32点のデザインを選出させていただきました。最も多くの票が入ったデザインをＴシャツに活用させていただき、他のデザインもプログラムにオールカラーで掲載いたしました。そして、後援である「東京ウエストライオンズクラブ」には、「横断幕」と「のぼり」を寄贈していただき、大会に華を添えてくれました。多くの参加者が「いいね」と言ってくださり、横断幕の前で記念撮影をされていました。大会当日、ランナーは伴走者も合わせて約160名、実行委員会、応援スタッフ約50名、ご家族や施設職員等の応援も含めると約300名が大会に参加されました。スターターには知的発達障害部会長である小池氏が務めてくださり、ハイペースとゆっくりマイペース２つのグループに分かれてスタートしました。春のような暖かい気温とあって、次々と汗ばんだランナー達がゴール。多くの拍手の中で、参加者の笑顔に溢れていました。しかし、転倒され手当を受けた方２名とゴール手前で動けなくなり、救急搬送された方が１名いらっしゃいました。お二人の看護師の方が迅速な処置をしていただいたおかげで大事に至らず、本当に助かりました。また、自動タイム計測の導入で個々の記録が正確にお伝えできるよう準備をしてもらいましたが、当日、機械のトラブルでリアルタイムでの掲示が出来ず、皆さんにご迷惑をお掛けしました。メダル授与の順位にも時間がかかったため、次大会への課題となりました。今大会のトラブルや反省点と向き合うことで、また次大会に向けての改善へとつなげていきたいと思います。次大会は、令和７年２月16日（日）開催予定としています。また、大会で多くの皆さんと笑顔でお会いできることを願っております。

24-04-013_かがやきNo.139.indd　3　　2024/04/12　17:25:53

都外施設特別委員会及び利用者支援研究会
令和５年度　都外施設学習会について

都外施設特別委員会　委員長　岩葉　滋希

【都外施設学習会について】

令和５年12月５日～６日に、宮城県登米市において学習会を開催しました。ここ数年はコロナ禍でなかなかイベントが開催できませんでしたが、今回は利用者支援研究会と合同の企画により数年ぶりに他事業所と対面での交流が行え、約40名と大勢の方にご参加をいただき、大変盛り上がる学習会となりました。

１日目は滝乃川学園の本多公恵氏を講師にお迎えし、「どうしたら支援の質が上がるのか～強度行動障害の方との接し方から考える～」についてご講義をいただきました。伝えたいことを表情だけで表す、言葉の指示だけで折り紙を折るなどの演習を通し、ご利用者の日常の困り感を体感。必要なサポートをその体験をもとに考えてみるといった内容の他、「アセスメント」や「支援時に他支援者との細かな部分まで確認する重要性」などについて学びました。会場からは時々笑い声があがり、楽しみながら取り組める内容であったとともに、施設に持ち帰って活用できる実践的な内容も多く、大変貴重な学びの機会になりました。

２日目は障害者支援施設はんとく苑を見学。定員の多くが東京都民となる「都外施設」として開設30年目を迎えた施設です。当日はあいにくの雨となりましたが、三島統括苑長や石川苑長の熱いお話しがあり、寒さも吹き飛ぶ想いでした。カセットの分解分別や農作業、清掃など、作業を中心とした生活を組み立て、ひとりひとりが持っている力を最大限引き出そうと様々な工夫をおこなっており、中には包丁を使い、一人で野菜を上手に切る仕事をされている方もいらっしゃいました。仕事を生きがいとしながら、ご利用者ひとりひとりが活き活きと生活されている様子がとても印象的でした。

【都外施設について】

1960年代から1990年代後半にかけて、東京都民が暮らす施設として北は青森県から西は岐阜県まで41施設が建設され、現在は総数約3,000人の都民が都外施設を利用されています。それぞれの自然環境を活かし、四季を豊かに感じられる暮らしができることも都外施設の魅力のひとつになっています。今後、都外施設の概要や魅力をまとめた動画を公開予定となっておりますので、完成した暁にはぜひご覧ください。

都外施設PR動画

はんとく苑　施設見学

24-04-013_かがやきNo.139.indd　4　　2024/04/12　17:25:54

令和６年能登半島地震について

知的発達障害部会

令和６年を迎えた１月１日、能登半島地震が発生しました。現在でも、現地では多くの方々が避難生活を続けており、日常を取り戻すまでには時間がかかることが予想されています。

東京都社会福祉協議会知的発達障害部会ならびに東京都発達障害支援協会は、東日本大震災をはじめ、熊本地震や西日本豪雨など、多くの被災地支援を行ってきました。

今回の能登半島地震においても、複数の福祉施設が被災しており、再建に向け少しでも力になりたいと考え、被災施設等を支援するため、合同対策会議を行い対応について協議した結果、合同で支援金を募ることとなりました。

迅速な送金につながるよう、第一次受付（令和６年１月15日～31日）、第二次受付（２月１日～29日）と期間を分けて募集しましたが、いずれの期間でも、たくさんの施設より暖かいご支援を賜りました。ご協力いただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

人的支援に関しては、被災地の受け入れ状況を鑑みて、部会単独の支援は行わず、厚生労働省・災害福祉支援ネットワーク中央センター（全社協）の枠組みによる社会福祉施設等に対する介護職員等の派遣と、東京都災害派遣福祉チーム（東京DWAT）としての派遣で対応しています。令和４年度に立ち上がった「東京DWAT」は、今回の能登半島地震で初めて、現地への支援に入ることとなりました。

部会会員施設でも、DWATの登録研修を受けた複数の施設から派遣されています。知的部会災害対策委員会委員長の岩田さんが今回、東京DWATのメンバーとして、支援に入りました。その際の様子や、今後の課題について下記のとおり伺いました。

東社協知的発達障害部会としては東日本大震災以降、度々被災地支援を行っていますが、今回は初めて東京DWATとして、石川県の輪島市立門前中学校の一般避難所の支援に入らせて頂きました。

知的部会災害対策委員会の委員のほとんどが東京DWATに登録しており、たまたま今回は第１クールから第３クールまでのチームリーダーを当委員会のメンバーが務めさせて頂くことになりました。私は第２クールで参加させて頂くこととなり、３月４日～９日の６日間の活動でした。東京DWATとしては初の実践ということで、派遣当日までは不安もありましたが、素晴らしいチームメンバーに恵まれ、できうる限りの役割は果たせたと思います。

これまで災害対策委員会の活動で他県のDWATを視察する機会もありましたが、これほど多くの都道府県のDWATが連携するような活動は想定しておらず、戸惑う場面もありました。しかし、それ以上にＤＷＡＴという組織の新たな可能性を感じることもできた派遣となりました。DWAT以外にも様々な団体が同じ方向を向いて連携し、目まぐるしく変わる被災者のニーズに応えようと奔走する日々に、改めて福祉の仕事を続けてきて良かったと思いました。被災地では、いまだにライフラインすらままならず、避難生活が長期化し、生活面の不安や福祉ニーズが高まっています。報道される頻度や世間の関心が薄れるのに反して、被災者の困り感は深刻なものになっています。

先述のとおり現地ではいまだ多くの方々が避難生活を続けており、今後も継続的な支援が求められます。

今後も知的発達障害部会では、被災地の再建に向け、支援を続けていきたいと考えています。

24-04-013_かがやきNo.139.indd 5 2024/04/12 17:25:54

じんけん Board

わたしの ホッと ニヤり

支援を通した利用者とのかかわり、
ご家族との会話の中や地域の方など
人が集まるところで偶然出会う瞬間に、
「ニヤり」としたり心が温かくなったりすることがあります。
自分だけのものにしておくのは「もったいない」ので、
「ホッと」な気持ちが広がっていくように書き留めてみました。

企画や外出の際、いつも声をかける前にご利用者の身だしなみを整え、トイレ誘導をして下さる職員の皆様。細やかなご配慮ありがとうございます。

職員がウォーキングの状況をグラフにしてウォーキング頻度を明確に示していました。均等にウォーキングを行う工夫とご利用者の身体機能維持に繋がりとても良い取り組みだと思いました。

職員が柿をご利用者が食べやすいように加工してくれました。食べづらそうなご利用者には、レンジで温め柔らかくして下さり、全員試食することができました、本当に助かりました！

ご利用者とアニメイトに外出された際に、それぞれのご利用者が好きそうなものを職員が一緒に選んでくれました。後日写真を見た際に笑顔のご利用者が映っていて、良かったです。

ご利用者が薬を飲まず困っていたところ、職員さんがすばやくパーテーションを用意して下さり、そのご利用者が周りを気にせず済むように配慮してくださいました。そのおかげで気持ちが切り替わり、薬を飲むことができました。

Aさんが、靴を履かずに移動していたBさんのところに靴を届けていました。周りをよく見ている気遣いと優しさににやりです。

理美容で落ち着かず、カットの途中で終わってしまったご利用者に対し、iPadで「好きな動画」を見ながら参加できるように配慮したことで、最後まで落ち着いてカットを受けることができました。

カラフルな絵柄が好きなご利用者のために、キレイな季節感あふれる塗り絵をプレゼントしお部屋に貼っていた職員、ご利用者へ向けての気遣いもとても素敵です。

ご利用者といっしょにウォーキングに出かけたとき、大きなクレーン車やガスタンクのトラック、きれいなお花や草木を見つけるたびに教えてくれました。そのご利用者の晴れやかな表情を見て、私ももっと普段からけしきを楽しもうという気分になりました。

歩行が不安定なご利用者でなかなか外出ができない様子に気が付き、積極的にドライブを企画してくださる職員、ご利用者思いでステキです。

24-04-013_かがやきNo.139.indd 6 2024/04/12 17:25:55

令和５年度　虐待防止・権利擁護研修報告

人権擁護委員　髙橋　加寿子

人権擁護委員会では、定期的に虐待防止・権利擁護研修（オンライン）を開催しています。

前年度は開催ごと定員を超す申し込みがあり、参加を断らざるを得ないことがあったため、今年度は開催を年間３回から４回に増やして実施しました（６月、８月、12月、２月）。前半は講義動画「障害者虐待防止の理解と身体拘束適正化について」の視聴（講師：関哉直人弁護士）、後半は講義でも触れられた、支援現場で起きる「小さな出来事」について、４～６人程度のグループに分かれ、グループワークを行っています。毎回70人ほどの参加者があり、今年度は参加希望者をお断りすることなく開催できました。オンライン型の研修にも受講者もだいぶ慣れてきており、コロナ禍で他事業所との交流が少なくなっている中、少人数でのディスカッションは大変盛り上がりを見せ好評でした。「小さな出来事」は、現場職員なら誰もが必ず気付くものです。施錠することは安全の確保である反面、自由を奪う行為ではないか？転倒防止だからと車いすを多用しすぎていないか？作業にやる気を出してほしいと、安易に工賃が～などと口に出していないか？見守りカメラで利用者のプライバシーを侵害していないか？小さなことでも、日頃の自分の支援が利用者を傷つけていないか、研修を通して振り返る良い機会になっていただければと思います。

虐待防止の研修は、虐待をなくしていくという、マイナスをゼロにすることが目的ではありません。ゼロからプラスへ、支援の質を高めていくことで、マイナス（虐待）から遠ざかることが一番の虐待防止だと思います。そもそも福祉に従事するすべての人が、日常の支援の中に潜む、虐待につながりかねない小さな芽に早い段階で気づき、修正することができれば、虐待は起きません。しかし連日のように、福祉従事者による心痛む報道がされているのも事実です。虐待防止には即効薬はありません。地道な研修の積み重ねが必要だと考え、人権擁護委員会は活動しています。

令和６年度も、当委員会の虐待防止研修をぜひご活用ください。

投稿おまちしております

読者の皆さまからの投稿をお待ちしています。

①「わたしのニヤリ・ホッと」

②「誰か教えて！私の支援間違ってない？」

③「川柳ぽーど」

①②の投稿につきましては、紙面の都合上1,200字以内とさせていただきます。原則として原文のまま掲載いたしますが、場合によっては内容を損なわない範囲で加筆・修正させていただきます。尚、事例については、施設・個人名が特定できないようご配慮お願いいたします。

③の川柳のテーマは福祉に関係するものであれば構いません。

投稿は匿名でもお受けいたします（その旨記載してください）。手紙、FAX、メールとお好きな方法でお送りください。

手紙の場合

〒162-8953　東京都新宿区神楽河岸１－１
社会福祉法人 東京都社会福祉協議会
知的発達障害部会 人権擁護委員会　宛

FAXの場合

０３－３２６８－０６３５
知的発達障害部会　人権擁護委員会　宛

メールの場合

東京都社会福祉協議会 知的発達障害部会 事務局
chiteki@tcsw.tvac.or.jp宛に「じんけんboard投稿」とタイトルをつけて送信してください。

24-04-013_かがやきNo.139.indd　7　　2024/04/12　17:25:55

施設紹介
かもめ園

【かもめ園の施設紹介】

かもめ園は、昭和58年東京都品川区の八潮団地内に全国初の都市型複合施設として設立した品川総合福祉センターの中に施設があります。八潮団地内は緑と運河に囲われた自然豊かな地にあり、地域の方達との交流が多いです。

かもめ園は100名。短期入所は５名の定員となっています。施設の運営では、知的障害者部門と身体障害者部門があり、それぞれの特性に応じて部門別に支援を行っていますが、最近では一緒に楽しめる行事などは合同で行い、楽しみの共有を行っています。

【地域との関わり】

地域交流として、地域の方と共に楽しむ「しなふく紅葉フェスタ」というお祭りの開催や生活介護にて作製した作品を地域のお祭りに参加し販売しています。また、地域の小学校・中学校へ訪問し福祉啓発事業を行っています。

【活動内容】

施設内の園庭を活用し、地域の企業ボランティアと協働して開墾した小さい畑でさつまいもの収穫を行い、料理を楽しむなどの活動を行いました。また、給食委託業者の協力を得た蕎麦打ち体験など、かもめ園では季節感を感じられるようさまざまな取り組みを行っています。

【かもめ園のこれから】

開設40年が経過しご利用者の身体状況が変化していますので、その状態に合わせた支援をより必要としています。ご利用者の骨密度測定や血管年齢の測定を行い、身体の状態を見える化するなど、工夫して支援の検討を行っています。また、かもめ園は多階層の施設になっているため、施設の整備や職員間の連携を目的に、ICT機器の整備をすすめています。インカム、眠りスキャン、眠りスキャンアイを導入し、ご利用者の健康管理と職員の働きやすさなどの改善を推進しています。ご利用者１人ひとりが日々笑顔で楽しく過ごせるよう支援をしております。

施設の全景

園庭でさつまいもを作りました

季節を感じながら緑道公園を散歩しています

作業場でお仕事をしています

屋上で景色を観ながら外気浴

福祉啓発事業の場面です

24-04-013_かがやきNo.139.indd 8 2024/04/12 17:25:56

施設紹介
板橋区立加賀福祉園

【施設概要】

板橋区立加賀福祉園は（社福）同愛会が平成18年４月より指定管理者として同一敷地内で、就労継続支援Ｂ型事業、生活介護事業、児童発達支援センターを一体的に運営しています。

法人理念「人生（存在）への支援・援助」の基に、「どんなに重い障害があっても地域で暮らし続けることを実現させる」を存在意義として事業運営に取り組んでいます。

加賀福祉園は石神井川沿いにあり、桜並木が有名です。

【就労継続支援Ｂ型：活動紹介】

就労継続支援Ｂ型は、生産活動と就労への取り組みと工夫・行事活動への取り組みと工夫・高齢化への対応・地域生活支援の促進及び相談支援の充実・身体機能の維持・低下予防への取り組みと工夫・自治会活動への継続的なサポートを重点目標として利用者支援に取り組んでいます。

『作業支援』では軽作業（封入、丁合）･印刷（名刺、封筒）リサイクル（古紙、アルミ缶）・自主生産品製作（刺子）など、『生活支援』では生活相談・利用者自治活動・クラブ活動などの提供をしています。

主な行事としては外出、利用者自治会など利用者の皆さんに企画立案等参加してもらい行っています。

【生活介護：活動紹介】

生活介護は、日中活動への取り組みと工夫・行事活動への取り組みと工夫・身体機能維持向上への取り組みと工夫・地域生活支援の促進及び相談支援の充実・医療との協力連携体制の確立を重点目標として利用者支援に取り組んでいます。

『生活支援』では生産、運動･音楽･ストレッチ･創作･レクリエーションなどの提供をしています。

主な行事としては､個別外出･季節の行事の実施の他に板橋区主催のスポーツ大会へ参加しています。

【児童発達支援センター：活動紹介】

児童ホームは児童福祉法に基づく児童発達支援センターです。幼児としての発達過程に留意し、お子さんの姿を関係性の中で捉えながら、様々なあそびを通しての発達支援を行っています。

また、地域支援として、相談支援事業・基本相談・親子通園グループの実施、・保育所など他の児童施設との連携等々を大切にしています。

工賃外出でお買い物

石神井川の桜は観光スポット

新入所者をお出迎え

24-04-013_かがやきNo.139.indd　9　　2024/04/12　17:25:56

Relay Column 私の主張 50

「好意的興味関心」と「意欲形成支援」

社会福祉法人由木かたくりの会　岸田　太樹

いつも元気な声で話し、笑い、でも泣いたり怒ったりもダイナミックで、作業に創作にいきいきと取り組む方がいます。私のはるかに年上なこの方は、就労継続支援Ｂ型で日中を過ごし、グループホームに帰り早めの夕食を済ませたあと、ときどき暇ができれば事務所に電話をかけてきて、たわいもない話で残業中のさえない私を笑わせてくれます。週末には実家へ帰り、大好きなビールを嗜み、なので金曜日の夜に事務所にかかる電話口は（多分）ほろ酔いで、いつも以上に私をしあわせな気持ちにさせてくれます。

ある日、この方は検査で入院治療が必要ということになりました。コロナ禍明けで久々のイベントの参加を楽しみにされていたこの方。入院前にぎりぎりイベントには参加でき、その後入院・手術・療養を経て無事復帰されました。大きな治療で失ったものもあったこの方でしたが、以前と同様の磊落な振る舞いは、心配していた周囲のスタッフや私をまたもやしあわせな気持ちにさせてくれました。

「利用者」と呼ばれる方々は様々で、言葉にならない思いやつらさを体いっぱい使って表現する方もいれば、ふとしたきっかけでその表現が誰にもマネできない美しいものになるという方もいたりします。個々の表現をポジティブに受け止め、ふとしたきっかけの提案あるいはきっかけそのものになる。私たち「支援者」と呼ばれる存在はそうありたいものだと、私は考えています。こうした「支援者」の姿勢を、私の職場のボスは「好意的興味関心」と呼んでいます。

意思決定支援、意思形成支援がうたわれる昨今ですが、前出の方など、様々な表現をされる「利用者」と呼ばれる方々が、「支援者」と呼ばれる私の意思形成・決定に至るための「意欲」を沸き立たせてくれています。無論、日々の現場はいいときばかりではないでしょうが、この冊子を手にとっている皆さんにも、私と同じような感覚になることがきっとあるのではないかと思います。する側とされる側の錯覚に陥りそうな「支援」というコトバに？を感じることが。

はたして、たった一人で形成される意思なんてあるのでしょうか。他者との豊かな相互作用の中にこそ、意思決定に至るための沸き立つ意欲や意思形成があるのではないでしょうか。

報酬単価と予算の数字が踊るディスプレイを前に、「数字には好意的興味関心は持てないな」などと思いながら、そんなことを考えました。

編集後記

令和６年は元日に発生した能登半島地震、日航機と海保機の衝突事故という波乱の幕開けとなりました。被災した皆様にお見舞いを申し上げます。とりわけ、自身が被災者となる中、献身的に利用児・者の支援を続けている福祉施設職員の皆様のご苦労をお察しし敬意を表したいと思います。今号が皆様のお手元に届く５月には、被災地の復興が少しでも進んでいることを祈るばかりです。

さて、令和６年度もアフターコロナの社会情勢にシフトする中、まだまだコロナを筆頭に感染症の予防には気を抜けない日々が続くと思われます。そのような中、利用児・者へのより良い支援のため日々努力する部会傘下の各施設事業所の姿と、部会の各種活動報告等を、本誌『かがやき』発行を通じ事務局の助けも借りながら委員一同で広報していきます。今年度も部会広報活動へのご協力をお願いします。

（八幡学園　久保寺　玲）

24-04-013_かがやきNo.139.indd　10　2024/04/12　17:25:57